



さくらゐ川

第六一号 平成十九年四月一日

熱日高彦神社社務所
電話 〇二四・六二・〇二四一

<http://hitaka.org> atuhitaka@hitaka.org

そこぬけの笑顔 おまつりレディース (?!)

「さあ、早くはいらい」「なんだべ、のみすぎだんでんでねえの?!」
重い神輿を担いで、やっとの思いでたどり着いた館島田公民館。お汁の美味しそうな匂いと、やさしい笑顔が迎え入れてくれます。
長年続く神輿渡御も、じつは陰で支えつづけてくださる奥さま方がいてこそ成し得ること。ほんとうに心から感謝しています。

「こごでいだだぐトン汁どにぎりめし、最高だなや!」

「あら嬉しいごだあ。ホレ、このからし菜、かれがら食べてみらいン」

春季例大祭日程

平成十九年四月六日(金)

祭典 午前八時

神輿渡御 午前九時半 お降り

十時五十分 三島神社

十二時 郷主内

十三時 島田公民館出発

十四時 神社到着

十四時三十分 日高香取神輿お降り

十五時三十分 鐘撞堂 胴上げ

十六時 御神輿お引込み

一気に右段を担ぎ上がります
富くじはお引込みのあと

神輿担ぎ手募集!

中学生から参加いただけます。経験者のもとより、島田の未来を担う人たちにぜひ、積極的に参加いただきたいと願っています。

連絡先 各区総代 神輿世話人・社務所

花火奉納者募集 一発三〇〇〇円で承ります。

◎お願い 本神輿初穂と子どもみこし祝儀は明記していただけると幸いです。

富くじはお引込みに声援を頂くため企画しています。ひとに預けず、ぜひお越し下さい。

温故知新

「体験すること」

続けること

つなげること」

枝野地区

子ども会育成会長

齋藤 仁さんに聞く



— 齋藤さんが会長になってから、育成会では毎年大森山に登っていますね。

「そうですね。大森山について六十歳代以上の人たちにきくと、若いころ草刈仕事で登っていて、よく覚えていゐる。ところが五十歳代以下の私たちは知らない、角田市で一番高い山だというのに。そこで、子供も大人も実際に登ったら良いと思ひ立つた、体験することは覚えること、そして忘れないことです。それから、私は地元が好きなので、地元の良さを発見したいし、発見してもらいたい。」

—地元には、まだまだ良いところがあるますか。

「もちろん。例えば活動の一つとして歴史探訪会を行っています。これは地元を知るといふことにはこんな良いところがあるということを見ようとしています。歴史

を知ることは自分を知ることにもなります。地元の歴史をどう魅力的に伝えていくか、工夫しているところです。これも体験することが大切です。体験することで子供たち

にふるさとを覚えていてほしいのです。」

—諸行事への参加状況はどうですか。

「残念ながら子供たちは少ないです（苦笑）土日は行事が入っているでしょう。でももともと、行事は大人も巻き込んでやれば良いと思っています。育成する側がまず楽しまなくては面白いことはできない。大人が楽しんで、その楽しさを子供に伝えていくという姿勢です。



佐藤良逸先生から歴史の話を聞く子供達

それに、毎年同じことでマンネリとも思いますが、これが実は大事です。お年寄りが同じ話を繰り返し孫に話して、そのことを孫は大人になっても覚えていますよね。

何回も繰り返して大人が子供に伝えていく。大切なことはそうやって次の世代に伝わっていくんだと思っています。」

―育成会活動は、地域ぐるみの次世代育成
 と言えそうですね。

「はい。言い換えれば、子供を媒体とした地域おこしかなとも思っています。子供に伝えようとすることで、実は大人も再発見したり覚えたりつながったり元気になったりする。そうなればいい。」

ーところで、齋藤さんには、育成会長のお立場から神社の神輿世話人参加いただきたいのですが…

「個人的にお祭りが好きだし、地域と子ども会がかかわるちょうどいい機会だと思っています。参加者を募っていますがなかなか難しい。けれどここ数年、子どももこし経験者が出てくるようになってきました。神輿を担ぐ楽しさを覚えていてくれたわけですね。きっと彼らの目には、大人の担ぐ姿が力強く焼き付いているのでしょう。お祭りこそ子ども育成の生きた手本です。」

―大人の神輿が元気でなくてはいけなのですね。

「仕事で出られない人にも、必ず声をかけるようにしています。島田地区民なら、たとえ出られなくても関心はあるはずで、負い目にさえ思っている人もいるでしょう。」

豊作と子孫繁栄を願って

八十八夜子眉嶺神社例祭

五月二日(水)は八十八夜。境内社子眉嶺神社の例祭日です。忠魂碑前の広場を会場にお祭りをいたします。今年はどんな催しになるのかな?…ご期待あれ。

幟旗(のぼりばた)奉納要領

- 一 八十八夜のご案内に併せお申し込み下さい。一般の方は神社にお問合せ下さい。
- 一 所定用紙にお名前・ご祈願名をご記入下さい。

- 一 初穂料 講中の方 二千元
一般の方 三千元

【社頭あれこれ】

装いも新たに年迎え

正月諸行事無事斎行

社殿と境内の修繕事業が竣工してから最初の正月。例年にも増して清々しい気持ちで新年を迎えることができました。歳旦祭から始まり、新年のご祈祷は全て社殿で行いました。暖かい環境で心おだやかに参りいただけたようです。

斎火祭には新設した斎火所に火が入られ、吸気口の工夫がうまく働き、よい効果



が得られました。これは、参拝者に気持ちよくお参りいただこうと、総代以外にも多くの方々が協力くださった結果であります。あらためて感謝申し上げます。

春の小川に流し雛

雛祭り(ひなまつり) 斎行



三月三日。春本番を思わせる暖かさの中、二年目となる雛祭りが斎行され、子供からお父さん、おばあちゃんまで二十名ほどが参列しました。今年も菊池きい先生等をお招きし、流しびなの折りかたを教わりました。折ったお雛様を神前にお供えしてお祭りし、皆でさくらゐ川に流しました。「ひっくり返った」「ひっかかった」と大はしゃぎ。その後、「小笠原雛」の折り方を教わり、色紙に貼って素敵なおみやげができました。

神社Q&A

Q ケイヤク(区会)配られるお札は、どこに貼っておけばいいのですか。

A お配りしているのはハラオクリのお札です。ハラオクリは、いく度か説明していますが、疫病や災難を区外へ祓い遣るお祭り。そのお札が『疫病退散祈符』です。ぜひ家の戸口、玄関などにお貼り下さい。

同じお札が十字路に竹にはさんで立てられているのをご覧になったことはありませんか。あれは「ここから内には悪いものが入ってきませんように」と立てられているのです。各家では入り口に貼り災い避けにします。この祭りは元来夏に行われた祭りですが、春祭りにも、島田地区に入る辻々で「辻祓い」を行い、お札を立てます。同じような意味です。今年見てみて下さいね。

神さまのおはなし

ヤマトタケル①

クマソたいじ

むかしむかし、ヤマトの国のみやこに、ひとりの皇子がいました。皇子はかしこく、つよく、こころやさしい若ものでした。

そのころ、クマソの国（今の九州）にクマソタケルというらんぼうものの兄弟がすんでいて、はばをきかせておりました。

皇子のお父さんの景行天皇は、皇子をよび「クマソタケルをこらしめ、人々をすくいなさい」と、おっしゃいました。皇子はとおくクマソの国へむかいました。

クマソの国の、クマソタケルのやしきにくと、おおぜいの人があつまっていました。新しいやしきができて、お祝いをしていたのです。お酒やごちそうがふるまわれ、うたをうたったり、おどりをおどったり。

なかでは女の人が、お客さんにお酒をついでいました。そこで皇子は女の人のすがたになり、お酒をもつて入っていききました。するとクマソタケル兄弟が皇子をよび、「酒をつけ」と、めいれいしました。

皇子はつよいお酒をたくさんつき、クマソタケルたちはよっぱらってしまいました。

「いまだ！」皇子は、かくしてもつていた刀で兄のクマソタケルをさしました。兄

のクマソタケルはあつというまに死んでしまいました。

弟のクマソタケルはにげだしましたが、皇子はおいけてつかまえました。

弟のクマソタケルは、ふるえながら「あなたはどなたですか」と、たずねました。

皇子は「わたしはヤマトの国の天皇の子だ」と、こたえました。

弟のクマソタケルは、「あなたはとても強い人だ。タケルとは勇気があり強い人というみです。あなたはこれからヤマトタケルと名のるのがよいでしょう」と、いいました。

それから皇子はヤマトタケルと呼ばれるようになりました。（つづく）

お日高さんの自然（二十二）

オケラ（朮）キク科



『角田市の自然（植物編）』より

桜の花が散り葉桜になると、今年も山菜のシーズンが訪れる。何十年前にもなるが子どもの頃、今は亡き母と毎年、近くの野山に山菜採りに行ったものだった。今のようにレクリエーションを兼ねてなどではなく、その頃は食糧難の時代であったから腹を満たすための年中行事のようなものであった。「山でうまいのは、オケラとトトキ」、山菜を愛でる（褒めたたえる）言い伝えであろう。トトキはリンドウの仲間のツリガネニンジンである。これらはあまり一般的ではないが、家に帰って母の袋を覗いてみると時々オケラやトトキも入っていた。母がつくってくれたオケラやトトキのお浸しや胡麻和えの味は今でも鮮明に覚えている。さて、オケラは本州、四国、九州から朝鮮半島、中国東北部に分布し、コナラやアカマツなどの明るい林の中や林縁生育することが多い。もちろん熱日高彦神社のまわりの雑木林にも見られる。茎は高さが五〇（センチメートル）前後で、上部で分岐し、地下に縦走する太い根茎がある。夏の終わり頃、枝の先に直径一、五（センチメートル）ほどの花（頭花）をつける。頭花の基部に魚の骨のようなものがあるのが特徴である。春に出る白い綿毛をつけた若芽は山菜に利用されたり、成長したものは茶花としても好まれる。オケラは、万葉の昔

から人々に親しまれてきた植物で「万葉集」の歌の中には「うけら」としてその名がある。根茎には邪気を祓う効力があるとされ、正月の屠蘇に入れられたり、根茎を燻した煙りは湿気を取りカビを防ぐとされて倉庫などで利用され、蚊などを防ぐのにも使われた。現在でも中国では虫除けに利用していると言う。なお、オケラの仲間の根茎は『朮』と呼ばれる重要な生薬で、健胃整腸、鎮痛などを目的に多くの漢方薬に処方されている。

文／小島和夫氏

社

頭

暦

四月 一日 卯月月次祭

六日 春季例大祭・神輿渡御神事

二九日 昭和の日(新しい祝日)

五月 一日 皐月月次祭

二日 子眉嶺神社例祭 八十八夜

三日 憲法記念日

四日 みどりの日

五日 端午の節句 こどもの日

六日 立夏

六月 一日 水無月月次祭

三〇日 水無月大祓式

ふるさとを担ぐ！

四月六日(金) いよいよ春祭り



角田(扇町)にお住
まいの
星 正一
公子ご夫妻の
長女あずさちゃん
平成一九年一月三
日生れ



三区(島田三)にお
住まいの
戸村 命
美夏ご夫妻の
長男 大地くん
平成一八年九月三
日生れ



二区(今泉一〇七)
にお住まいの
門馬希道
明子ご夫妻の
長男 元秀くん
平成一八年一〇月
二二日生れ

お宮参りおめでとございます

\$\$\$ 奉納・奉仕 \$\$\$

◎米、野菜、果実など奉献

各区 神社総代各位(新嘗祭神饌)

一区 佐藤俊一、赤坂敏栄、木幡市郎、

齋藤公一、黒須嘉次男

二区 齋藤仁、渡辺郷司

三区 三品久志、佐藤善一、佐藤勝征

◎備品など

三区 佐藤善通(神輿木札)

◎境内整備など奉仕

三区 佐藤勝征

◎植木・花など奉納

※順不同、敬称は略させていただきます。

※祭典初穂、祝儀、祈禱時の奉獻等は割愛させていただきます。

※事業奉賛については改めて報告させていただきます。

編集後記

エルニーニョ現象が終わりいつとき冬を思わ
せた三月も過ぎ、いよいよ桜の四月。お祭りに
咲くでしょうか。入学式にはちょうどよさそう
ですね▼育成会長の齋藤仁さんに、子ども会育
成についての思いをきかせていただきました。
後日、校正をお持ちしたところ「これ、こんな
立派なこと、言ってねえよ」。酒が本音を語らせ
ることはよくあります▼平成二十三年に迎える
創祀一九〇〇年に向け、御祭神について知って
いただこうと「神さまのおはなし」の連載を始
めました。まずはヤマトタケルノミコトです。